

関東信越グループ 優秀賞

新潟病院

タイトル

3K改革～Kirei・気持ちいい・交換～

リーダー

(看護師)堀 仁美

取組メンバー

- (看護師)藤本 祥子、
- (看護師)小林 拓弥、
- (看護師)岡村 沙世子、
- (看護部長)宮原 規子、
- (副看護部長)白井 良子、
- (臨床工学技士)渡部 雅也、
- (臨床工学技士)柳生田 真



チーム：7 病棟

取組要旨

当院では平成26年7月新病棟移転に伴い、病棟編成を行った。その中で筋ジストロフィー病棟は40床 3看護単位が60床 2看護単位になった。現在病棟では患者数55名、呼吸器48台を管理している。新病棟編成による手順の違いや呼吸器回路の種類と数が多いため適切な交換が行えなかった。そこで回路保管場所の整理、回路一覧表の作成、教育的な関わりとして臨床工学技士介入による回路交換の実施、人工呼吸器関連物品管理マニュアルの作成の4つの取り組みを行った。その結果回路交換の物品準備が円滑で正確に実施でき、適切な頻度での回路交換と交換時間の短縮に繋がった。

3K改革～Kirei・気持ちいい・交換～

○堀仁美¹藤本祥子²小林拓弥³岡村沙世子⁴白井良子⁵宮原規子⁶柳生田真⁷渡部雅也⁸ NHO 新潟病院 (1看護師 (臨床工学技士)

テーマ選定理由

平成26年7月新病棟移転に伴い、病棟編成を行った。筋ジストロフィー病棟は40床×3看護単位が60床×2看護単位に構成となった。移転前それぞれの病棟で回路交換システムが異なっていた。そのため、適切な頻度での交換が行えなかった。また、患者数55名に対し呼吸器48台を使用しているため、呼吸器回路の種類・数が多くスタッフ全員が把握出来ていないため交換に時間を要していた。

現状 ①患者数55名 呼吸器48台(4種類)
②呼吸器回路:8種類11パターン使用

①②の取り組みにより
回路交換物品の準備時間の変化(10～15人分)
H26.7～8月 平均 21分

H26.9～12月 平均14.25分
①保管場所の整理(種類別に分類)
②回路一覧表の作成
教育のため1・2年目中心に実施

H27.1～3月 平均24.10分

・回路交換日の必要物品の準備漏れはなくなった
・1・2年目のスタッフ中心に行ったH27.1～3月は時間が長くなったが呼吸器回路について学ぶ機会となった

③臨床工学技士と回路交換の実施:週1回(10～15人分)

専門的な教育!
臨床工学技士

H26.7月 看護師のみ(他業務も行いながら) 2～4時間
H26.8～H27.3月 臨床工学技士と看護師 平均51分

臨床工学技士介入により
・より安全で短時間で回路交換出来る
・スタッフの教育機会が増えることで安全な呼吸器管理に繋がる

④人工呼吸器関連物品管理マニュアルの作成
・人工呼吸器回路、人工呼吸器用マスクの管理について記載
・スタッフ全員に周知するため呼びかけ、学習会の実施

主要因

- 1.回路の種類が多く保管場所が整理されていない
- 2.個人の回路を把握できず、準備や交換に時間がかかる
- 3.移行前それぞれの病棟で回路交換システムが異なっていた
- 4.吸着回路交換にかかる時間と労力が増大した

活動経路 ①保管場所の整理

整理前

↓ 種類別に分類、収納ケースに写真と物品名を記載

整理後

↓ 股ホルから押し出した

②回路一覧表の作成:交換物品を写真付きで記載

患者名	回路	写真
名	180cm蛇管 + マウスピース用回路 + フィルター	
	アクティブNI + 蛇管20cm + チャンパー	
	蛇管75cm×3、ホースアダプター 呼吸ポート、ウォーターラップ フローセンサー、白3点セット + フィルター + チャンパー	

臨時で回路交換した際は日付の記入をお願いします!!

日	火	水	木	金	土	日
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						

まとめ:①～④の取り組みを通して
★回路交換物品の準備
時間に大きな変化はなかったが保管場所の整理、回路一覧表の作成後は物品の準備漏れはなくなった。

★回路交換
臨床工学技士介入により人工呼吸器の専門的な教育の機会が増え、大権な時間短縮にも繋がった。

★人工呼吸器関連物品管理マニュアル
マニュアル作成により一層の多職連携強化へ繋がるシステム作りとなった。